

3 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として実施している。

開設日時とカリキュラム、および受入先は次のとおり。

開設日時と内容

8月20日(木)	9:30～10:15	開講あいさつ・美術館と学芸活動
	10:15～11:00	オリエンテーション
	11:00～12:00	館長講話「大型美術展のできるまで：その舞台裏」
	13:00～14:00	美術館の展示環境
	14:00～15:00	「戦争と平和展」「HPAM(所蔵作品)展」見学
8月21日(金)	15:00～16:00	ミニ企画展実習(1概論)
	9:30～12:00	作品取扱い実習・調書作成(絵画)
	13:00～15:00	作品取扱い実習・調書作成(工芸)
8月22日(土)	15:00～16:00	「藤子・F・不二雄展」見学
	9:30～10:30	展覧会を取材する(館内取材・資料調査)
	10:30～12:00	展覧会を紹介する(短評作成・相互批評)
8月24日(月)	13:00～14:00	ミニ企画展実習(2企画-討議)
	14:00～16:00	ミニ企画展実習(3企画-立案)
	9:30～10:30	ミニ企画展実習(4企画-集約)
8月25日(火)	10:30～12:00	ミニ企画展実習(5企画-制作)
	13:00～16:00	ミニ企画展実習(6企画-制作)
	9:30～12:00	ミニ企画展実習(7企画-発表準備)
	13:00～14:30	ミニ企画展実習(8発表)
	15:00～16:00	受講生ディスカッション

受講生所属大学

尾道市立大学、神戸女子大学、東京農業大学、同志社女子大学、奈良女子大学、広島市立大学、広島女学院大学、広島大学、安田女子大学(計17名)

ミニ企画展実習

メインカリキュラムの「ミニ企画展実習」では、仮想の展覧会を企画することにより、美術館業務を体験することをねらいとする。受講生は4班に分かれ、グループワークにより、今回は、終戦(被爆)70周年に当たり、伝えたいメッセージを設定し、当館所蔵作品5点程度により展覧会を企画・構成し、あわせて、広報イメージ・子ども向けワークシート・関連イベント等を考案し、プレゼンテーションを行うという課題にとりくんだ。各班から提案された展覧会企画は次のとおり。

①	あの頃-戦前日本の人々の風景- 広島ゆかりの画家による戦前の子ども達の日常を描いた作品を展示することにより、日常の中にある幸福とそれを奪った戦争を想起させ、平和の大切さを伝える。
②	ヒロシマのそれから、～つながる、平和への想い～ 被爆地ヒロシマの記憶の風化・忘却が危惧される今日、被爆前、被爆後から今日に至る広島を描いた作品を展示することにより、記憶の継承の大切さを伝える。
③	FACE～生命の螺旋～ 様々な年齢・性別の人物画を展示し、唯一無二の生命や受け継がれてきた生命の尊さを伝えることにより、生命を守り育む平和の大切さを訴える。
④	戦争と子ども展～明るい未来を創造するために伝えていくこと～ 日常を平穏に過ごす子ども達を描いた作品と戦争や原爆で命を奪われた子ども達を描いた作品を対比させることにより、子ども達の未来が平和により守られるべきことを訴える。

(本研修担当者：宮本真希子)